

令和7年9月26日

職員の皆さんへ

令和8年度予算編成にあたって

富田林市長 吉村 善美

令和8年度当初予算は、私が富田林市長として市民の皆さまとお約束をさせていただいた公約を実現はもとより、さらに発展・進化させる、2期目の集大成とする予算編成です。

現在、本年4月から開催されている大阪・関西万博は、10月13日の閉幕に向けて、最後の盛り上がりを見せているところです。

万博では、健康寿命の延伸に向けた健康・医療技術が展示され、テーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を世界に発信できたことや、様々なイベントを通して、市民の皆さまとともに、国内外へ本市の魅力をアピールできたことは、市長として大変誇らしく感じております。このレガシーは今後の市政運営に活かしていかなければなりません。

一方、紛争による世界情勢の悪化や金利の上昇、為替変動等による物価高騰は継続しており、市民生活に大きな影響を与えています。また、各地で地震や大雨による被害が相次いで発生していることや、いつ起きてもおかしくない南海トラフ地震に対する備えなど、防災に対する市民の意識も一層高まっています。

そのような社会情勢において、私は市長として、自らの政治信条である「市民とともにつくる、市民が幸せになる、市民本位の市政」の実現のため、誰もが「富田林に生まれて良かった、暮ら

して良かった、長生きして良かった」と思っていただけの富田林の創造に向けて、これからも「一つ、ひとつ、未来へ」前進していく決意に揺るぎはありません。

私は、市役所は「市民の役に立つ所」でなければならないと考えており、それを常々職員の皆さんに伝えています。市民の皆さまから託された貴重な財源と資源を有効に活用するため、市民とともに汗をかきながら、最大限の効果を発揮させられるよう、様々な事業に創意工夫して取り組んでいかなければなりません。

職員の皆さんは、「厳しい財政状況だから、できません」と思考を停止して、「できない理由」を探すのではなく、「どうすれば厳しい財政状況でもできるのか」を常に考え、答えを探し当て、実行してください。

だからこそ、これまで実施してきた取組みを漫然と継続するのではなく、市民の声に真摯に耳を傾け、常に改善意識や問題解決への意識を持ちながら、優先順位や費用対効果を考え、今より改善や見直しできる点はないか、新たに取り組むべき事業の財源やマンパワーを生み出せないか「ビルド&スクラップ」の視点を念頭に検討してください。

「ビルドすることにより、既存事業の発展的なスクラップができないか」「厳しい財政状況であっても実現可能な方法はないか」という意識を常に持って業務にあたり、市民満足度の向上を図ってください。

各部長においては、単に部内のマネジメントにとどまらず、市民の幸せを第一に考え、部の職員の声を拾い上げ、他の部局との連携による更なる効果の創出や、喫緊の課題解決に向け、組織に縛られることなく、部局連携予算として積極的に取り組んでくだ

さい。また、さらに組織を越えて他市町村との広域的な連携ができないか、市民協働の視点を用いて実現できないかなど、固定観念にとらわれず、視野を広げ検討してください。

以上の認識を踏まえ、令和８年度の予算編成は、引き続き、所信表明で市民の皆さまにお約束した、

- １．すべてのこどもを、みんなで応援するまちづくり
- ２．すべての市民の暮らしを支える住民福祉の増進
- ３．人とまちが賑わい、地域の魅力と可能性を開くまちおこし・地域おこしを推進
- ４．行財政改革・市役所改革の継続と市民サービス向上の両立を追求

を４つの柱とします。

さらに、社会課題の解決につながる事業などについては、企業版ふるさと納税や、ガバメントクラウドファンディングの活用を積極的に検討し、市の財政負担抑制や収入増加に努めてください。

本市の出生数は、５年前の令和２年度は６２８人でしたが、令和６年度では５１９人となりました。残念ながら、本市だけでなく日本全体で少子化が急速に進行しています。少しでもこの少子化にブレーキを掛け、トレンドを反転させることが非常に重要です。

これまで、何度もお伝えしていますが、私たちは、既存の施策に磨きをかけ、国や府、他の自治体よりも一歩先を行く施策を目指し、実行していかなければなりません。そして、「魅力あるまち・富田林」を実現し、市民の皆さまに「富田林市は良いまちだ」と実感いただけるよう、引き続き、私が先頭に立ち、全力で取り組みます。

「歳入の範囲内で歳出予算を組む」という財政規律を引き続き堅持することは言うまでもありません。全職員一人ひとりが知恵を出し合って、各所属において建設的な議論を行い、来年度の予算編成に取り組みましょう。

以上、令和8年度予算編成の基本方針とします。